

道徳科学習指導案

日時 令和3年10月27日(水)
第5校時 13:40~14:25
対象 第6学年1組 22名
授業者

1、主題名 『明るく生きる』(A 正直、誠実) 「手品師」 (東京書籍)

2、ねらい

どのような状況にあっても、常に誠実に行動し、明るい生活をしようとする心情を育てる。

3、主題設定の理由

ねらいについて	教材について
集団生活の中で誠実に明るく行動し合うことは、楽しく快適に暮らすためにも大切なことである。良心に従って精いっぱい努力したり、人に対して真心をもって接したりする心情を育てたい。	本教材は、あまり売れない手品師が、男の子との出会いをきっかけに、自身の生き方を見つめる内容の話である。いつか大勢の人の前で手品を披露したいと正直に生きる姿と、目の前の男の子に手品で喜ばせようと、誠実な振る舞いをする姿が描かれている。それらを同時に選択することを迫られた時の、手品師の心の葛藤をしっかりと見つめ、手品師に共感して考えることで、ねらいに迫るようにしたい。

4、研究主題に関わる児童の実態と、ICT活用の具体的な手立て

(ア) 児童の実態とモラルジレンマ資料の活用

研究主題である「伝え合い、学び合える児童の育成」を目指して、各教科の内容における見方・考え方を働かせながら、協働的に学習を進めてきた。道徳科においては、モラルジレンマ資料を活用することで、葛藤場面を議論したり、両者の立場や価値について考えたりすることで、伝え合いや学び合いの楽しさを味わってきた。

児童の中には、思春期を迎えるとともに、自分の考えに自信がもてなくなったり、他者との違いに敏感になったり、学習への姿勢が消極的になり始めている様子も多く見られる。本教材の葛藤場面を通して、様々な見方・考え方を伝え合うことの良さや、学び合えることの楽しさを味わいながら、ねらいに迫れるよう指導に当たる。

(イ) オクリンクによる協働学習

ミライシード「オクリンク」は、協働学習を支援するICTソフトである。授業の中では、児童の考えを取り上げることに時間的・物理的な限界があるが、オクリンクを活用することで、個人の意見を瞬時にクラス全体に共有したり、他者の意見を取り入れながら自分の意見を見直したりすることができる。

本時では、選択した内容が見分けやすいよう、オクリンクに2色のカードを用意する。同時にワークシートも用意するが、ワークシートに記入する前に考えをもった児童からオクリンクで共有していくことで、自分の考えをもてない児童や新たな視点で考えを深めたい児童にとっての助けになると考えた。また集団検討場面では、児童の発言とともにオクリンクのカードを提示することで、その児童の選択や考えた内容が他の児童に視覚的に理解しやすいようにする。

(ウ) プレゼンテーションソフトによる教材提示

本時の教師の説話で、プレゼンテーションソフトを活用した教材提示を行う。プレゼンテーションソフトを活用することで、映像や文章にアニメーション効果を加え、意図的かつ効果的に提示することができる。説話では、

著名人の生き様や思想に触れ、教師から本時のねらいに迫れるよう働きかけたい。

5、本時の展開

(1) 本時のねらい

どのような状況にあっても、常に誠実に行動し、明るい生活をしようとする心情を育てる。

(2) 本時の展開

時間	学習内容（学習活動） T：教師の発問 C：予想される児童の反応	指導の工夫 ★ICTの活用・工夫 ○指導上の留意点 ◎評価基準（観点）
導入	1、葛藤や決断をした経験について発表する。 T：これまでにどんな葛藤の経験がありますか。 C：宿題をしなければいけないけれど、遊びたい。 C：友達に注意するか、見過ごすか。	★事前にオクリンクでアンケートを取っておき、全体で共有しながら話し合わせる。 ○自身の経験について考えさせることで、本時の課題やめあてを明確にする。
考えたい	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">めあて</div> このようなとき、あなたはどの行動しますか？	
展開	2、「手品師」を読んで、内容を理解する。 3、葛藤場面に触れ、物語の続きを考える。 T：あなたなら、「男の子との約束」を果たしますか、それとも「大劇場のステージ」に立つ夢を叶えますか。 C：男の子との約束を守りたいから。 C：昔からの夢を叶えたい。 4、友達と考えを交流する。 C：男の子との約束はどうするんだろう。 C：こんなチャンスは二度とないかもしれない。 C：大劇場のステージに男の子を招待するのはどうだろう。	★2色のカードのうち、自身が選択した方に考えを記入して、提出ボックスで共有させる。 （「男の子との約束」は青色のカード、「大劇場のステージ」は赤色のカード） ★提出ボックスで共有された友達のカードを参考にして、他者の考えを取り入れたり、新たに考えを見つめ直せたりしながら、ワークシートに自分の考えを書き込ませる。 ○ファシリテーションの手法・役割によって、児童の発言や参加を促したり、話の流れを整理したりすることで、伝え合い、学び合いを活発にする。 ★すすんで発言できない児童を推薦させることで、より多くの児童が参加できるよう促す。
知りた	5、教師の説話を聞く。	★プレゼンテーションソフトを活用して、視覚化させた説話を聞いて、ねらいに迫れるようにする。
終末	6、学習を振り返る。 T：今日の学習を振り返り、自身の行動やこれからの生き方について考えてみましょう。	◎どのような状況にあっても、常に誠実に行動し、明るい生活をしようとする心情を育てる。 （オクリンク・発言内容・行動観察）